

防災と都市交通を考える市民のつどい

# 高潮・津波で大阪市水没の危機

申し込み不要  
どなたでも参加できます

日時

9月12日(土)

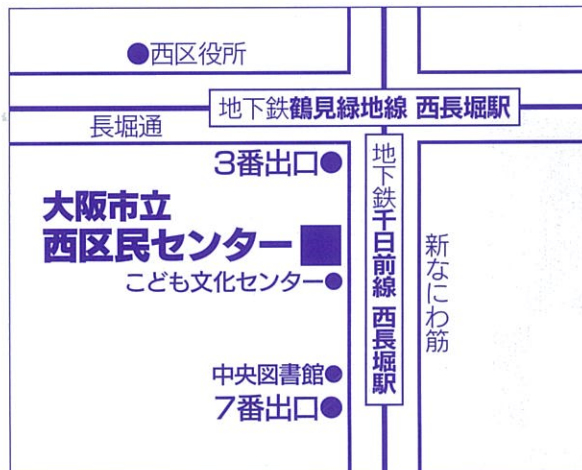
午後2時～4時30分  
(開場 午後1時30分)

会場

大阪市立西区民センター

●西区北堀江4-2-7

◆地下鉄 千日前線「西長堀」駅 ⑦番出口 北へ100m  
◆地下鉄 鶴見緑地線「西長堀」駅 ③番出口 南へ100m



講演

河田 恵昭さん

(関西大学社会安全学部教授)



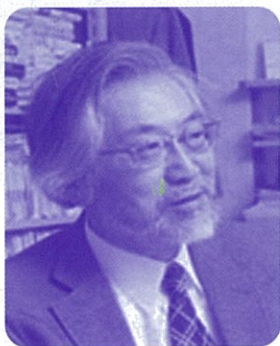
プロフィール

専門は河川工学、自然災害、防災システム。京都大学名誉教授。人と防災未来センター所長。東日本大震災復興構想会議委員。津波災害一減災社会を築く(岩波書店)検証 東日本大震災(ミネルヴァ書房)など著書多数

問題提起

土居 靖範さん

(立命館大学名誉教授)



プロフィール

交通権学会前会長。大阪市の交通の会幹事、赤バス連絡会顧問。「生活交通の再生—住みつけられるための“元気な足”を確保する—」(自治体研究社)など著書多数。

5月の住民投票では、今後予想される南海トラフ地震・津波とそれに備える地域のあり方や交通政策が一つの争点になりました。高潮・津波で大阪市水没の危機が叫ばれているなか、地下鉄民営化などは論外です。9月市会では三たび、地下鉄・市バスの民営化が提案され、市長選挙前の大きな争点となります。

また、赤バス廃止から2年5カ月。「病院や買い物に行けない」と悲鳴と怒りの声があふれています。代替え手段を公募区長に丸投げした結果、各区でバラバラの対応となり、利用する市民に大きな格差が生まれました。安心して移動できる市営の「コミュニティバス」を甦らせましょう。

大阪市つづしをやめさせ、みんなの知恵を寄せ合い、住む人に優しいまちを作りましょう。



主催 大阪市をよくする会 交通権の確立・大阪市営交通を守り発展させる会

連絡先 大阪市をよくする会 ☎06-6357-6139 / 全日本年金者組合大阪府本部 ☎06-6354-7207 大阪市北区天神橋1-13-15 大阪グリーン会館

# 交通権とは？

「誰でも、どこへでも、安全、快適、自由に移動でき、同時に他の人の権利を侵害しない」交通像で、これを実現するのは公共交通であると想定されています。

鉄道やバス路線の廃止によって、国民の「移動する権利（交通権）」が侵害されている事例は全国に存在します。

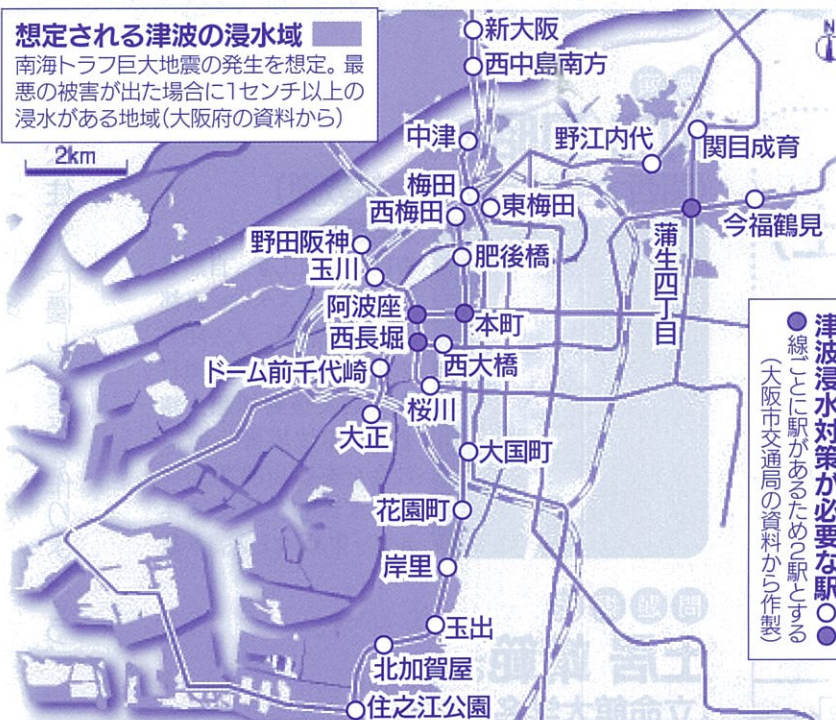
赤バスの廃止、バス路線の縮小により大阪市内でも現実問題として「交通権」が侵害され市民の足が奪われています。

赤バスの廃止、バス路線の縮小により大阪市内でも現実問題として「交通権」が侵害され市民の足が奪われています。



# 地震・津波被害への備えは？

**想定される津波の浸水域**  
南海トラフ巨大地震の発生を想定。最悪の被害が出た場合に1センチ以上の浸水がある地域(大阪府の資料から)



●津波浸水対策が必要な駅○●  
●線●に駅があるため2駅とする  
(大阪市交通局の資料から作製)



想定される津波の浸水域(朝日新聞2013年12月7日付)より

大阪府は東日本大震災並みの地震を前提とした場合、大阪市内には2時間ほどで津波が到達し、市内の3分の1が浸水するという被害想定を公表しています。大阪市交通局が全8路線123駅を調べたところ、30駅で浸水の恐れがあることがわかり、5年間で最大100億円の予算を計上し、止水扉の設置などの浸水対策を本格化させています。地下街・民間ビルの浸水対策を含め、これで市民の安全は大丈夫なのでしょうか？ また、今年6月、大阪地下街(株)の株式を建設局から交通局へ、なぜ有償所管換えしたのでしょいか？！